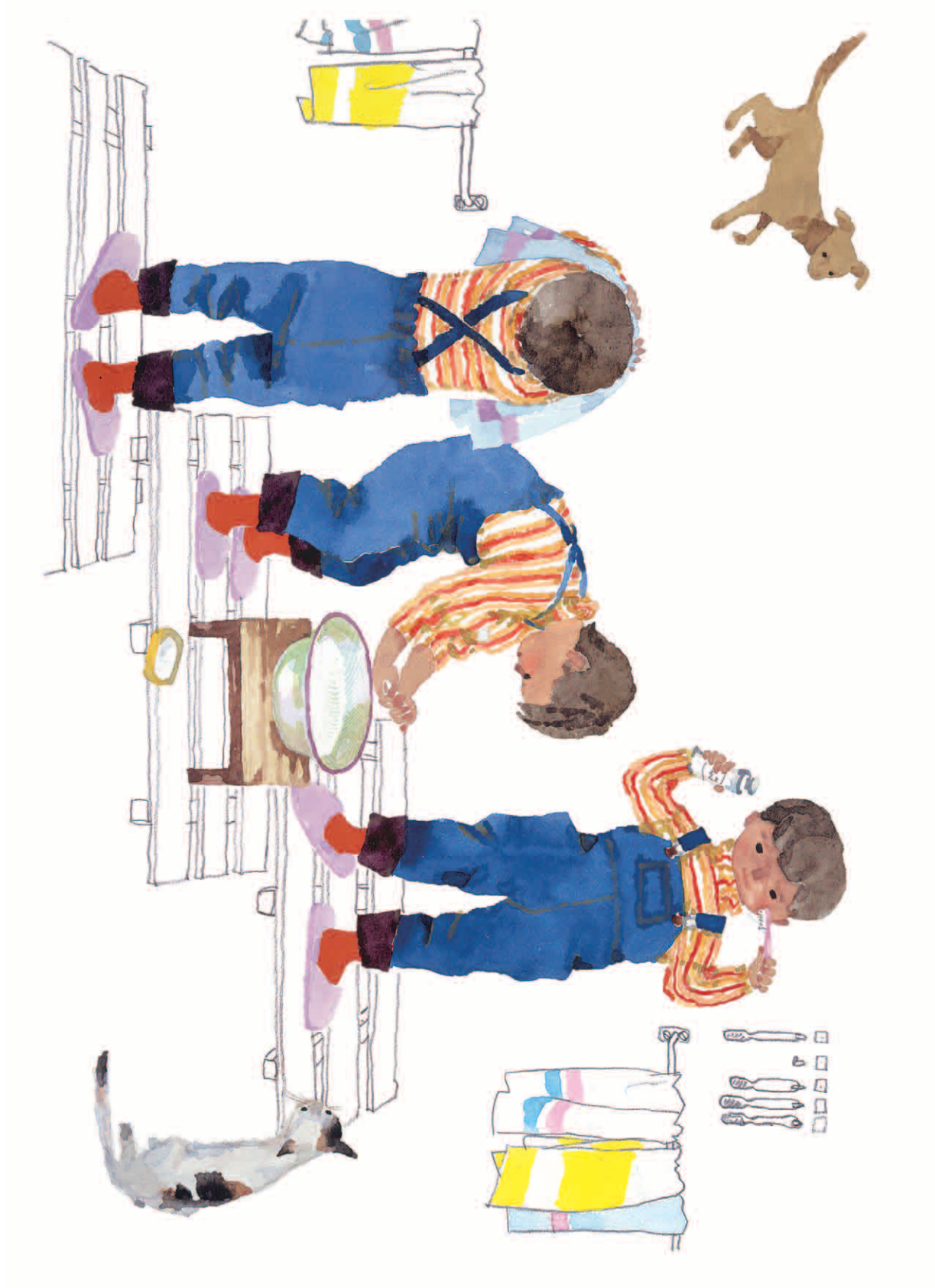


ちひろ美術館・東京
美術館だより

No.177

2012.5.11



ドキュメンタリー映画公開記念展 **ちひろ 27歳の旅立ち**

●2012年5月23日(水)～8月26日(日)

協力：ホライズン・フィーチャーズ、クレストインターナショナル/後援：絵本学会、こどもの本WAVE、(社)全国学校図書館協議会、(社)日本国際児童図書評議会、日本児童図書出版協会、(社)日本図書館協会、杉並区教育委員会、中野区、西東京市教育委員会、練馬区、武蔵野市教育委員会

波乱に富んだちひろの人生を描いた初のドキュメンタリー映画「いわさきちひろ～27歳の旅立ち～」(海南友子監督)が、7月から劇場公開されます。映画の公開を記念して開催する本展では、ちひろが生きた証となる貴重な作品や資料とともに、彼女自身のことばや縁の人々の証言を紹介、絵の奥にあるちひろの想いにまで迫ります。27歳で画家を志してから、どんなに苦しいときもあきらめず、絵の道を歩き続けたちひろの姿を、ぜひ映画と合わせてご覧ください。

ここでは、映画のなかで語られる「証言」の一部を紹介します。(上島史子)

■東京大空襲を体験し、現在、東京大空襲・戦災資料センター館長を務めている友人・早乙女勝元

「中野の空襲は連日で、次の爆撃があればいつ死ぬかわからない状態でした。空襲で家を焼け出されたあとの彼女は、やっぱり戦争の惨禍というのを身に染みて感じたんじゃないでしょうか。」

■画家を志して単身上京し、神田に住んでいたころ、スケッチのモデルになった近所の子どもたち・晶子、雅子、朝子姉妹
「絵を描きたいとか勉強したいとか思ったときに、やりたいことができる世の中にきつとなるのよ」とおっしゃっていました。高い理想をお持ちで。夢を与えてくださった大人でした。」

■丸木位里・俊夫妻が主催するデッサン

会に共に通った友人・三輪寛子(図1)

「デッサン会ではお互いのコスチュームや裸を描いたりしましたね。『みんな本物のモデルさんじゃないんだから、裸になるのは恥ずかしいわね。じゃあみんな裸になろう』って丸木俊さんがいって、描く人も裸になったの。特にちひろさんは恥ずかしがりやだったからね。」

■夫・松本善明

「妻が年上の結婚ってというのは、当時はそんなにたくさんじゃなかった。誰にも賛成されるわけではないから、結婚式は二人でやろうと。ちひろは再婚ですしね。」

■ひとり息子・松本猛(図2)

「気がつく横でスケッチをしていることはよくありました。例えば、お蕎麦を食べるとき、お箸で麺をすーっと持ち上げて、そのまま立ち上がったります。そうしたら『猛、ちょっと止まってなさい』っていわれて、びたっと止まるわけですよ。子供心に、気分がいいんですね。役に立ってる感じがして。」

■最初の絵本『ひとりてできるよ』(図3)を手がけた福音館書店の元編集者・松居直

「月刊物語絵本『こどものとも』を創刊するために、いろいろな絵雑誌に目を通しておりました。そのなかでも女性のお二人が非常に印象に残ったんです。お一人が堀文子先生、そしていわさきちひろという若い方。ちひろさんは、どちらかと

いえば素人臭い感じだったんですが、逆に親しみがもてました。10日くらい缶詰になって、ほんとに全力投球をしてお描きになったんですよ。そのときの緊張感というのはすごかったと思います。」

■転機となった絵本『あめのひのおるすばん』(図4)を共に制作した至光社の元編集者・武市八十雄

「天性ですよ。花とか子どもの顔とか、やさしいものが見えちゃうんですね。初期のころ、お仕事が甘いということをおわかれて、ずいぶん悩まれたことがあったんですが、僕はいったんです。『可愛く見えるでしょ？見えちゃうんならそのまま押し通したらいい』って。」

■ちひろの絵本に影響を受けたというアニメーション作家・高畑勲

「保育園に行っていた娘が持って帰ってきた『あめのひのおるすばん』っていう絵本をみて、びっくりしたんですね。子どもの不安な気持ちを見事にとらえていて。こういう絵本が成立するのかって。」

■ちひろ美術館館長・黒柳徹子

「ちひろさんが一番描きたかったのは『戦火のなかの子どもたち』(図5)みたいなものなのかもしれないと思いますよ。どんなことがあっても子どもたちを悲しい目にあわせてはいけません。こんな幼い、こんな無垢な、こんなかわいいものを、誰も傷つけてはいけません。だから平和をお願いします、と。」

ちひろ美術館コレクション **奇想の絵本 - 夢幻とナンセンス -**

●2012年5月23日(水)～8月26日(日)

現在、ちひろ美術館は、世界32ヵ国200名の画家による約17000点の絵本画家の作品を収蔵しています。本展では、収蔵作品のなかから「夢幻」と「ナンセンス」をテーマに、新鮮な驚きに満ちた奇想の絵本に光をあてます。

夢幻のイラストレーション

チェコやスロヴァキア、ポーランドなど旧社会主義国では、1960～70年代に国営の児童書出版局を中心に高い水準の子どもの本が競うように出版され、オリジナリティを追求した幻想的なイラストレーションが開花しました。

スロヴァキアのアルビーン・ブルノウスキーは、細密なエッチングの技法で、昔話を表現しました(図1)。ウィーン幻

想派に影響を受けたこの画家の幻想的リアリズムは、教え子であるドゥシャン・カーライやローベルト・ブルンへ受け継がれ、新たな展開をみせます。ブルンは物語に出てくるモチーフをひとつの画面に再構築しています。緻密な画面構成と細密描写は、よく知られた童話を、誰も見たことがないファンタジーに変えてしまいます(図2)。

ポーランドのスタシス・エイドリゲヴィチュスは、空想的な物語を物憂い色調と静謐なタッチで描いています。白昼夢のような静かなイメージは、恐怖に転じそうな緊張感をはらんでいます(図3)。**ナンセンスのイラストレーション**

洋の東西を問わず、古くから子どもの

本には、ナンセンスの詩や物語、絵本が存在します。18世紀から19世紀に書かれたG. A. ビュルガーやエドワード・リア、ルイス・キャロルの奇想天外な物語は、現代の画家の感性を通し、新たな驚きに生まれかわります(図4)。

第二次世界大戦後、日本の絵本界を牽引した画家のひとり、長新太は、ナンセンス絵本の新境地を示しました。『ちへいせんのみえるところ』では、地平線を見渡せる広大な場所に、人、火山、飛行船などが、「でました。」という言葉とともに、脈絡もなく次々と現れます(図5)。

本展では、合わせて、ヨーロッパやロシアや日本のナンセンス絵本の歴史的な資料も展示します。(原島恵)



図1 三輪寛子像 1946年頃



図2 長男・猛 1951年



図3 手紙をポストに入れる男子
『ひとりのできるよ』(福音館書店)より 1956年



図5 ガーベラを持つ少女 1970年頃



図4 雨にけむる家
『あめのひのおるすばん』
(至光社)より 1968年

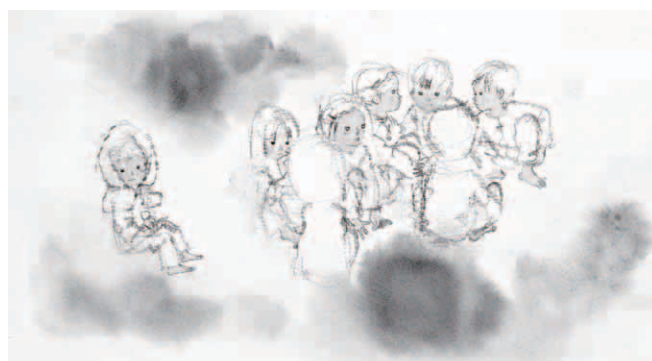


図6 防空壕のなかの子どもたち
『戦火のなかの子どもたち』(岩崎書店)より 1973年



図1 アルビン・ブルノウスキー
(スロヴァキア) 酔った龍 1990年



図2 ローベルト・プルン
(スロヴァキア)
『12カ月のおとぎ話』より 1989年

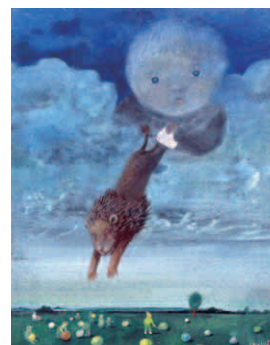


図3 スタシス・エイドリゲヴィチウス
(ポーランド)『氷の精』より 1979年



図4 アンドレア・ベトル
リク・フセイノヴィッチ
(クロアチア)『不思議の国
のアリス』より 2002年

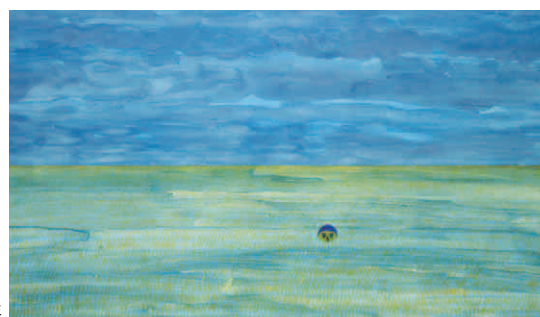


図5 長新太(日本)
『ちへいせんのみえるところ』
(ピリケン出版)より 1978年

「光の鳥」FUKUSHIMA ARTプロジェクト

●2012年3月1日(水)～3月25日(日)

2011年3月11日の東日本大震災から1年。震災で大きな被害を受けた福島県いわき市出身の現代美術家・吉田重信さんと若い有志のアーティストたちが昨年6月に立ち上げたFUKUSHIMA ARTプロジェクトによる展覧会を図書室などで開催しました。

「光の鳥」プロジェクトでは、吉田さんがデザインした光の鳥とともに園児やその親、中学校たちが絵やメッセージを書いたはがき840枚*を窓いっぱいに展示しました。はがきには「がんばろう福島」「子どもの未来は親が守る!」といったことが。昨年は福島県内や近県で約4000通の光の鳥



のはがきが集まったといえます。「福島では、子どもを放射能から守ろうと長く離れ離れになってしまう家族もある。光の鳥のはがきが未来に届くことが、家族の小さな希望になってくれば」と、吉田さんはこのプロジェクトにこめた思いを語りました。3月10日、11日には、ちひろ美術館・東京でも、光の鳥のはがきを描くワークショップを開催しました。宛名は自分の家族、福島の保育園、首相とさまざま。はがきはいくつかの展示会場を巡ったあと、宛先の人に届けられます。

この展覧会のもうひとつの軸となったのが映像作品「IWAKI-心のことだま」です。震災後いわきに留まっている親子、安曇野に避難した親子、いわき市立美術館の副館長等、6名のいわき市民の生の声が記録されています。3月11日には、そのなかの一人でもあり、昨年11月に開設されたいわき放射能市民測定室代表の織田好孝さんによる講演会も開催されました。放射能の問題で母親の不安が尽きないなか、放射能を自分の目で確認して食べ物を選ぶように

と、有志の母親たちがスタッフとなり、測定器の使い方を学んで測定にあっているといえます。色も匂いもない放射能ですが、数値で示すことで、判断ができるようになります。参加者からは「行政の対策が遅れるなか、子どもを守るために信頼できる情報を提供しようと活動を始めた方々に敬意を抱きました。」ということばが寄せられました。

「日本のなかでも福島だけが危険な場所として切り取られてしまっているように感じるが、今日本には54基の原発があり、放射能は決して福島だけの問題ではない。自分や、自分の子どもの問題として、いっしょに考えてほしい」。被害を風化させないようにアートで語りかけていこうとするFUKUSHIMA ARTプロジェクトの展覧会は、今後、京都や大阪でも開催されます。

(上島史子)

*「光の鳥」プロジェクト協力施設
本町保育所、鹿島保育所、長崎保育所、四倉保育所、古湊保育所(いずれもいわき市立)
郡山市立富田中学校
みぎわ幼稚園、南台保育園、アトリエKEIKI(いずれも茨城)

〈館外展紹介〉損保ジャパン東郷青児美術館

ちひろ美術館コレクション ちひろと世界の絵本画家たち

～心をつなぐアート 25カ国の絵本原画が勢ぞろい～

●2012年7月7日(土)～8月26日(日)

この夏、東京・西新宿にある損保ジャパン東郷青児美術館で、2回目のちひろ美術館コレクション展となる「ちひろ美術館コレクション ちひろと世界の絵本画家たち」が開催されます。

本展では、コレクションから厳選された世界25カ国を代表する53人の画家による約130点の原画を展示します。海外の画家の作品は、アジア、アフリカ、オセアニア、ラテンアメリカ、北アメリカ、ヨーロッパの地域にわけて、国ごとに紹介します。エリック・カール(アメリカ)、エフゲーニー・ラチョフ(ロシア)、ジョン・バーニンガム(イギリス)等、よく知られている画家たちはもちろん、ベトナムやコスタリカ、アルゼンチン、南アフリカ共和国など、日本では紹介されることの少ない国々にも、すば

らしい画家がいます。子どもと心を通わせることができる魅力的な画家たちが描いた作品からは、それぞれの国の文化や風土の違いも豊かに伝わってきます。

日本からはいわさきちひろが幼少期に憧れたという岡本帰一や初山滋、戦後の混乱期に活躍した茂田井武、今も読み継がれる絵本を多数描いた赤羽末吉や長新太、現在まさに活躍中の荒井良二、武田美穂等、大正期から現代までの個性あふれる17人の絵本画家の作品が展示されます。特にちひろの作品は『絵のない絵本』『ほちのきたうみ』『戦火のなかの子どもたち』など5冊の絵本の原画25点と充実しています。

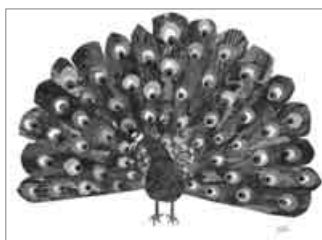
新宿と上井草は西武新宿線で一本。ぜひちひろ美術館・東京の展覧会とあわせてご覧ください。(上島史子)



いわさきちひろ(日本)
『あかいくつ』(偕成社)より 1969年



エフゲーニー・ラチョフ(ロシア)
ロシア民話「マーシャとくま」 1965年



エリック・カール(アメリカ)
くじゃく 1991年

主催：損保ジャパン東郷青児美術館・朝日新聞社・ちひろ美術館
企画協力：アートベンチャー・オフィス ショウ

損保ジャパン 東郷青児美術館

〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1
損保ジャパン本社ビル42階
TEL.03-5777-8600 (ハローダイヤル)

<http://www.sompo-japan.co.jp/museum/>

【休館日】月曜日(祝日は開館)

【開館時間】午前10時～午後6時

*入場は閉館30分前まで

【観覧料】一般1000円、大学・高校生600円、
シルバー(65歳以上)800円、中学生以下無料
【交通】JR新宿駅西口、丸の内線新宿駅・
西新宿駅、大江戸線新宿西口駅D4出口よ
り徒歩5分

■開催記念講演会

「黒柳徹子が語るいわさきちひろ」

講師：黒柳徹子(ちひろ美術館館長)

日時：7月7日(土)14:00～(13:30開場)

場所：損保ジャパン本社ビル2階

(美術館と同じビル)

料金：無料 定員200名(要申し込み)

申込方法：損保ジャパン東郷青児美術館HP
か官製はがきに「郵便番号・住所・氏名・
人数」をご記入の上、6月7日必着で会場
館の「絵本原画展講演会係」宛にお申し込
みください。抽選の上、当選者のみ6月22
日までに聴講券が送られます。

ひとこと ふたこと みこと



1月24日(火)

初めて来館しました。美術館にいることも忘れて、我が家か祖父母の家にいるかのような気持ちで過ごすことができました。やさしさとか温かさとか、でもそれだけでは家族の感じ、愛情が伝わってきます。こんな美術館がもっと増えたらと思いました。(碧紗)

3月11日(日)

初めて夫と訪れました。「絵には興味がない」と言っていた夫が真剣に見入っている姿に、これからの家族の在り方を考えさせられました。結婚してまだ3ヵ月。これから、ちひろさんの作品のように、生活にやわらかな色を取り入れ、小さきものに幸せを感じながら家族と生きていきたいです。

(大阪 嘉成晴香 24歳)

〈ちひろと香月泰男展〉

香月泰男美術館や山口県立美術館で見たシベリアシリーズは、胸の奥でドーンと突き上げてくるものがありました。ここで見る香月は、同じ絵でも違って見えました。これも香月なんだな!と。もう一度、山口で見たいと思います。(S.A.)

3月3日(土)

私にとってのベストは『戦火のなかの子どもたち』のなかの「焰のなかの母と子」です。今日はその絵が見られました。2回目です。何度も見たことのある絵も、テーマを決め、さらに香月泰男さんという柔と剛のような対照的なタッチの画家の作品と共に鑑賞することで、とても新鮮に感じました。

(新潟の長谷川)

3月8日(木)

東日本震災で津波に家を流されました。友人も失いましたが、家族は無事でした。香月さんの「涅槃」の絵の前に座り、亡くなった人たちを思い出しています。生かされた私たちは、人のためになるように元気を出して頑張ります。

(金澤英子 64歳)

3月22日(木)

私たちは戦争を経験していません。それは幸せなことだと思います。平和のなかで子ども時代を送れたのですから。しかし、平和はとても崩れやすいものです。気をつけて大切に扱わないと、壊れてしまいます。美しいもの、豊かなものを愛そうと思います。このような強い思いを、ちひろさん、香月さんからいただきました。心より感謝します。(福田実希 21歳)

美術館 日記



2月8日(水) ☀

東京・安曇野両館の職員合同研修。前半は「ちひろ美術館のアイデンティティ」を職員同士が語り合い、後半は、美術館のロゴマークもデザインされた佐藤卓氏を囲んでの実践的研修。今年のポスター、チラシ、安曇野館の新しい包装袋などを題材に、何を残し、何を变えるのか? 見る人におもしろそう! と興味を持っていただくには? など、ひとつではない答えを探り、活発に意見が飛び交った。

2月29日(水) ☽

ちひろのドキュメンタリー映画の初号試写会開催。みぞれ降るなか、中原ひとみ・江原真二郎ご夫妻、早乙女勝元さん、ナレーションを務めた加賀美幸子さんらが来場。

3月1日(木) ☀

「ちひろと香月泰男」展初日。カ

フェでは、展示関連スペシャルメニュー「香月の愛した葡萄酒」として香月泰男が山梨・甲府から一升瓶で取り寄せて愛飲したワイン(赤・白)をハーフボトルで。あわせてアミューズ(チーズやドライフルーツの盛り合わせ)も登場し、ちょっと大人の雰囲気。ちひろと同時代を生きた画家の、共通する想いや異なる作風……展覧会の余韻をカフェでじっくり味わっていただけたらうれしい。

3月3日(土) ☀

桃の節句にちなみ、WS「水彩のにじみでおひなさまのカードをつくろう」を開催。たっぴりの水と水彩絵の具で障子紙に描いた「にじみ」を着物にして、カードに貼ると……世界でたったひとつの「おひなさまのカード」の出来上がり。じっと集中して取り組んだ

4歳の女の子、おひなさまの顔を描かず「帰宅したら孫に描いてもらおう」と持ち帰った女性、意外に多かった男性参加者。個人的なおひなさまがたくさん生まれた。

3月8日(木) ☁

先日閉館間際に到着されたタイ人男性が、「日本滞在中にきちんと見ておきたかったので」と再度来館。タイでもちひろの絵本が出版されて、子どもたちがちひろのようなやさしい色調の水彩作品に接する機会があればいいのに、と語る。限られた滞在期間での再訪に感謝。

4月3日(火) ☁/☔

台風並みの低気圧の通過により、東京も春の嵐となる。庭では3月下旬から次々に咲き始めた花々が強風にあおられながらも、しなやかに耐えていた。交通機関への影響を考慮し16時閉館に。

窓

新しい時代に向かって

松本由理子 (働いわさきちひろ記念事業団事務局長)

3.11震災から1年が過ぎ、2012年度が始まった。今年度は東京館開館35周年&リニューアル10周年、安曇野館開館15周年、そして、当財団が、現況の公益法人として活動する最後の年度だ。財団がなくなるのではない。新制度に移行するためだ。

「天下りの温床になっている」「公益という名の元に、不適切な活動を行っている法人がある」との声を背景に、公益法人制度の改革が叫ばれたのは10年前。2006年に新法が制定され、施行日(2008年12月1日)から5年以内の移行が義務付けられた。新法による厳格な公益認定基準をクリアした

法人だけが、認定を受けて「公益財団法人」となることができるという法律だ。

法律が変わろうと、ちひろの死をきっかけに、私たちがこの財団をつくった理念と目的は変わらない。子どもの幸せと平和を願い続けたちひろの思いを受け継ぎ、ちひろが人生をかけた“絵本”という表現ジャンルを大切なひとつの“芸術”として位置づけ、原画の散逸を防ぎ、絵本文化等の発展に寄与する活動を行う——その実現の場として、ちひろ美術館をつくり、運営してきた。

創設以来、想像をはるかに超える世界中の方々に支持していただき、35年をかけ、

ちひろだけでなく、思いを同じくする世界の絵本画家の作品を収集・保管・研究・公開する、世界初の絵本の専門美術館と呼ばれる存在に育つことができた。

ハードルが高かるうが、進むべき道は公益財団だと理事会は決定。専門家の力もかりながら6月に申請書類を提出、2013年4月1日からの新スタートを目指す。

ちひろの映画も公開される。絶対あきらめないで夢に向かって歩き出した27歳のちひろ。私たちの財団も、今年、役員・職員一丸となって、新しい時代に向かって、一歩を踏み出す。引き続き、乞う、ご支援。

●次回展示予定 2012年8月29日(水)～11月11日(日)

ちひろ・
子どもたちの情景

絵本のなかに“心のふるさと”を描いたちひろ。なつかしい遊びを描いた童画、絵本『となりにきたこ』『みんなでしようよ』の原画、遊ぶ息子のスケッチなど、子ども情景を描いた作品の数々を展示します。



緑の幻想 1972年

〈企画展〉国際アンデルセン賞受賞画家
アンソニー・ブラウン展
—ゴリラが好きだ—

ゴリラやチンパンジーを主人公にしたユニークな絵本で知られ、2000年には国際アンデルセン賞も受賞したアンソニー・ブラウン。本展では、絵本原画のほか、数々の資料も展示し、その人生や絵本づくりの全体像も紹介します。



アンソニー・ブラウン (イギリス)
『すきですゴリラ』(あかね書房)より 1983年

ちひろ美術館・東京イベント予定

<http://www.chihiro.jp/>

各イベントの予約・お問合わせは、ちひろ美術館・東京イベント係へ。TEL.03-3995-0612 E-mail chihiro@gol.com

●ドキュメンタリー映画公開記念 関連イベント

海南友子講演会「映画制作を通して出会ったちひろ」

ドキュメンタリー映画「いわさきちひろ～27歳の旅立ち～」の監督による講演会。

- 日 時：7月14日(土) 16:00～17:30
- 講 師：海南友子(映画監督)
- 定 員：80名
- 参加費：800円(入館料別、高校生以下は入館料無料)
- 要申し込み 6月14日(木)受付開始

●松本猛講演会『戦火のなかの子どもたち』ができるまで

母・ちひろと共に絵本『戦火のなかの子どもたち』(岩崎書店)をつくった松本猛。制作秘話や絵本に込められた想いを語ります。

- 日 時：7月28日(土) 17:00～18:30
- 講 師：松本猛(いわさきちひろの息子、ちひろ美術館常任顧問)
- 定 員：80名
- 参加費：無料(入館料別、高校生以下は入館料無料)
- 要申し込み 6月28日(木)受付開始

●夫・松本善明が語るいわさきちひろ

松本善明が、妻・ちひろとの思い出を語ります。

- 日 時：8月8日(水) いわさきちひろの命日 17:00～18:30
- 講師：松本善明(ちひろの夫、弁護士)
- 聞き手：松本由理子(いわさきちひろ記念事業団事務局長)
- 定 員：80名
- 参加費：800円(入館料別、高校生以下は入館料無料)
- 要申し込み 7月8日(日)受付開始

●2012年7月 ヒューマンラストシネマ有楽町ほか全国順次ロードショー!

ドキュメンタリー映画

「いわさきちひろ～27歳の旅立ち～」

画家いわさきちひろの知られざる人生を、貴重な証言でつづる、初のドキュメンタリー映画です。

エグゼクティブプロデューサー：山田洋次 監督・編集：海南友子
声の出演：壇れい、田中哲司/ナレーション：加賀美幸子/出演：黒柳徹子、高畑勲、中原ひとみ、松本善明ほか www.chihiro-eiga.jp

●お盆期間の開館情報

2012年8月10日(金)～20日(月)は無休、18:00まで延長して開館いたします(最終入館17:30)。

●はせぼん&たけぼんの絵本と音楽の世界

都内初! はせぼん&たけぼんの大人気コンサートを開催します。

- 日 時：6月10日(日) 17:00～19:00 サイン会 19:00～19:30
- 出 演：長谷川義史(絵本作家)、大友剛(音楽とマジック)
- 定 員：80名
- 参加費：2000円(大人・子ども一律料金。入館料別、高校生以下は入館料無料) ○要申し込み 5月10日(木)受付開始

●わらべうたあそび

親子で楽しく参加できます。0～2歳までの乳幼児と保護者対象。

- 日 時：6月16日(土) 11:00～11:40
- 講 師：服部雅子 ○定 員：15組30名
- 参加費：無料(入館料別、高校生以下は入館料無料)
- 要申し込み 5月16日(水)受付開始

●鎌田寛講演会「困難な時代をどう生きるか
—チェルノブイリ、フクシマをみつめて—」

○日 時：7月22日(日) 16:00～17:30

- 講 師：鎌田寛(医師)
- 定 員：80名
- 参加費：1000円(入館料別、高校生以下は入館料無料)
- 要申し込み ※参加ご希望の方は、「ちひろ美術館・東京 イベント係」宛てに、①参加者氏名②住所③電話番号を明記の上、往復はがきにてお申し込みください。1枚のはがきで同伴者1名まで応募可。応募者多数の場合は抽選となります。(6月20日申し込み締め切り、当日消印有効)

●ちひろの水彩技法ワークショップ

水彩のにじみ技法を体験できます。子どもも大人も参加可能。

- 日 時：8月18日(土)・19日(日) 14:00～15:00(各回40分)
- 参加費：200円(入館料別、高校生以下は入館料無料)
- 要申し込み 7月18日(水)受付開始

●松本猛ギャラリートーク

8月12日(日) 14:00～ *参加自由

●ギャラリートーク

毎月第1・3土曜日14:00より展示室にて、作品の解説や展示のみどころなどをお話しします。

●えほんのじかん

毎月第2・4土曜日11:00より展示や季節にあわせて、絵本の読み聞かせなどをおこないます。(参加自由)
*授乳室もご利用になれます。

CONTENTS

〈展示紹介〉ちひろ 27歳の旅立ち/ちひろ美術館コレクション 奇想の絵本—夢幻とナンセンス—…②③

〈活動報告〉FUKUSHIMA ARTプロジェクト報告/〈館外展紹介〉ちひろ美術館コレクション ちひろと世界の絵本画家たち…④ ひとつことふたことみこと/美術館日記/窓「新しい時代に向かって」…⑤